

1 プロジェクトのテーマ

次世代型太陽電池の需要創出・早期普及に向けた課題整理及び具体策等についての検討

2 テーマ設定に係る経緯・背景

- 国では、令和6年11月に策定した「次世代型太陽電池戦略」において、次世代型太陽電池の導入拡大に向けて、「量産技術の確立」・「生産体制整備」・「需要創出」を三位一体で進めることとしており、特に地方自治体や環境価値を重視する民間企業が「初期需要」を牽引することを期待している。
- 需要創出に向けて国では、当面、<u>耐荷重が低い屋根(金属屋根等)に重点</u>を置いて取り組んでいく方針であり、本県は、京浜臨海部や県央部を中心に、<u>耐荷重が低い屋根が多い工場や倉庫群</u>が広がっていることから、<u>次世代型太陽電池の需要創出に向けて、大きなポテンシャル</u>を有すると考えられる。
- 現時点では、需要に対して供給が圧倒的に不足している状況ではあるが、今後 の市販化・量産化等を見据え、<u>今から地域の需要創出に向けて準備</u>を進めること が重要であり、この度、本プロジェクトを立ち上げることとした。

3 事業目的

- ケーススタディによるシミュレーション等を通じて、次世代型太陽電池を実装する際に生じる課題や必要な対策等を具体的に整理・検討し、設置場所の特徴等に応じたモデルケースの創出に繋げる。
 - ※ ケーススタディによるシミュレーション結果等は、随時、プロジェクトメンバーと共有する。
- ケーススタディに加えて、各プロジェクトメンバーにおいても、それぞれ主体 的に早期普及・実装化に向けた取組を検討する。例)

[メーカー・施工企業] シミュレーション結果を踏まえた対応策 等

〔金融機関〕ファイナンス、保険のあり方(実装を後押しする仕組み)等

[各企業] 自社施設を想定した具体的な設置可能性の検討 等

[自治体] 補助・支援制度、公共施設への設置可能性、普及啓発に向けた取組の 検討 等

※ 検討を進める中で、メーカーや施工企業等に個別に相談意向等が生じた場合 には、随時対応(事務局も積極的に調整)。

4 取組内容

(1) 次世代型太陽電池の最新状況を共有(連携協定締結事業者等から説明)

(第1回プロジェクト会議で実施予定)

- ・ 次世代型太陽電池の開発状況
- ・ 次世代型太陽電池の強み・課題
- ・ 施工・設置上の留意点
- ・ 法令上の課題 等

(2) 具体的な施設を想定したケーススタディを実施

(第1回・第2回プロジェクト会議で実施予定)

- ・ 公共施設(体育館)及び民間施設(工場、倉庫等)数か所を想定
- 発電量・費用等のシミュレーション
- ・ 施工・設置上の留意点 (建築主事からの助言) 等

(3) 早期普及・実装化に向けた検討(各メンバーによる主体的な検討)

(第2回・第3回プロジェクト会議で実施予定)

- ・ シミュレーション結果を踏まえた対応策の検討 (メーカー・施工企業)
- ・ ファイナンス、保険のあり方(実装を後押しする仕組み)の検討(金融機関)
- 自社施設を想定した具体的な設置可能性の検討(各企業)
- ・ 補助・支援制度のあり方、公共施設への設置可能性、普及啓発に向けた取組の検討(自治体) 等

5 スケジュール (予定)

日程	内容	(参考)国の動向
	第1回プロジェクト会議	5~6月
	○ 最新状況の共有(連携事業者等・県説明)	・全自治体等への
	○ ケーススタディ対象施設の設定	アンケート調査
	○ 今後の進め方 等	
7~8月	(第2回プロジェクト会議に向けて)	夏頃~
	○ ケーススタディ対象施設における分析	• 実装加速連絡会
	○ プロジェクトメンバーによる検討	
	アンケート調査の実施	
	・ 事務局からの情報提供 等	
	第2回プロジェクト会議	秋頃~
9~10月	〇 視察(見える化実証現場等)	・補助事業の公募
	○ シミュレーション結果の共有・対応の検討	開始
	○ プロジェクトメンバーの検討状況の報告	
	・ 補助・支援策、ファイナンスのあり方検討	
	・ 普及啓発の取組 等	

	第3回プロジェクト会議	
12~1月	○ シミュレーション結果を踏まえた対応の検討	
	○ プロジェクトメンバーの検討状況の報告	
	・ 補助・支援策、ファイナンスのあり方検討	
	・・普及啓発の取組・等	
	○ 報告書(案)の検討 等	
3月	第4回プロジェクト会議 ○ 報告書の確定	年度内
		・設置・施工ガイ
		ドライン公表